

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：23303

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02943

研究課題名（和文）初年次教育は学生の汎用的技能の育成にいかに関与しうるか？IRの視点からの検証

研究課題名（英文）How can first-year education contribute to the development of students' general skills? An examination from the perspective of Institutional Research (IR).

研究代表者

澤田 忠幸 (Sawada, Tadayuki)

石川県立大学・生物資源環境学部・教授

研究者番号：50300447

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、学生のキャリア形成支援と連動した初年次教育の在り方を検討するため、1年時および就職活動前の3年時における汎用的技能の現状を客観的に把握し、学生の入学時の個人特性と入学後の大学適応感やキャリア意識のあり方が、学士課程教育を通じた学習成果（学業成績・汎用的技能）とどのように関連しているのかについて検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、1年時および就職活動前の3年時における学業成績ならびに汎用的技能習得における個人差と伸長度を規定する要因について、Astin（1993）のI-E-Oモデルを基に、学生の学習成果（learning outcome）に焦点を当てて検討することにある。すなわち、入学時の個人特性の影響を考慮した上で、入学後の初年次教育における大学適応感やキャリア意識の醸成の重要性について、学修成果との関連を通して分析することができたと考える。

研究成果の概要（英文）：In this study, to explore the ideal approach to first-year education in conjunction with supporting students' career development, we aimed to: (1) objectively understand the current state of generic skills in first-year students and again in third-year students before job hunting, and (2) examine how students' individual characteristics at the time of enrollment, as well as their sense of university adaptation and career awareness after enrollment, are related to learning outcomes (academic performance and generic skills) throughout the undergraduate program.

研究分野：高等教育

キーワード：初年次教育 適応感 キャリア意識 汎用的技能 学業成績（GPA） 教学IR

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

今日、高等教育の学習成果として、専門的知識や技能に加え、汎用的技能(ジェネリックスキル)を中心とする資質・能力の習得が強調されている。この背景には、先の見えない不確かな時代と言われる今日においては、これまでのように、既有知識の習得だけでは人生の様々な局面を切り開いていくことが困難であるとの認識がある(中教審「質的転換答申」,2012)。このような問題意識のもと、高等教育研究では授業改善を目指した個別授業レベルにおけるミクロな視点およびカリキュラムレベルにおけるマクロな視点から、汎用的技能の育成に関わる要因の検討や、実践的な教育効果について検討されてきた。しかし、先行研究においては、以下の三つの視点で課題も見られた。

- (1) 研究方法の視点: 学生の能力の成長に視点を据えた学士課程を通じた縦断的調査の必要性
- (2) 評価指標の視点: 学生調査と標準化されたベンチマーク評価指標(アセスメントテスト)との対応づけの必要性
- (3) 多次元的分析の視点: 能力の側面と学生の特性要因、学習状況の適正処遇交互作用の検討の必要性

2. 研究の目的

本研究では、Astin (1993) の I-E-O モデルを基に、入学時の学力や学生の特性要因ならびに入学後の大学適応感やキャリア意識のあり方が、1年時ならびに就職活動前(3年時)の学業成績(GPA)および汎用的技能の各側面、ならびに2年間の伸長度とどのように関連するのかについて、学習成果の側面による違いの有無を含めて検討することを目的とした。

3. 研究の方法

令和元年の予備試行を含め、4年間で三つの縦断的コホート調査(学生調査ならびにアセスメントテスト)を実施した。なお、教学データ等の使用においては、当該大学(A大学)の承諾を得て担当部局からの協力を受けた。

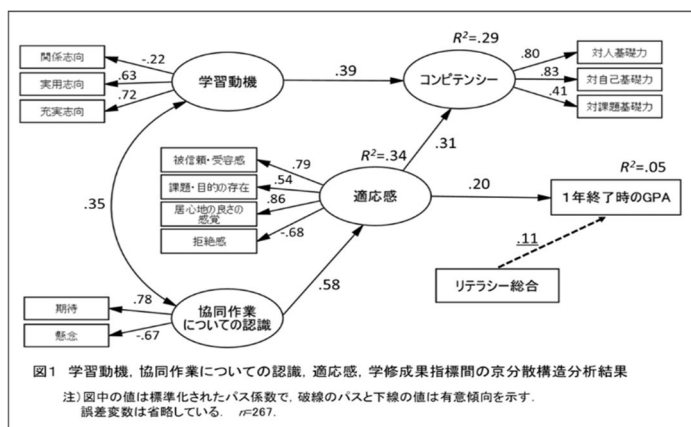
調査内容 (1) 学生調査 入学時調査 「学習動機」、「自己効力感」、「学習方略」、「協同作業についての認識」、「批判的思考態度」等について調査を行った。1年前期終了時調査 「大学適応感」、「ライフキャリア意識」、「批判的思考態度」等について調査を行った。3年前期終了時調査 1年前期終了時と同様に、「大学適応感」および「ライフキャリア意識」について調査を行った。(2) 学習成果 学習成果指標のうち、学業成績(GPA)は当該大学の教学データを用いた。一方、汎用的技能は、学校法人河合塾と株式会社リアセックが開発した PROG (Progress Report On Generic Skills) を用いて測定した。(3) 入学時の学力状況

手続き 本調査は、入学時、1年前期終了時、3年前期終了にわたるパネル調査である。そのため、調査は全て学籍番号による記名式で実施した。なお、調査実施に際し、その目的は教学改善に向けた教育研究であり、回答内容が成績評価に影響することはない点、個人情報適切に取り扱う旨を説明し、協力者には研究協力の承諾書の提出を依頼した。また、研究実施にあたり、所定の手続きを経て所属するA大学の人権・倫理委員会研究倫理部会の承認を得ている。

研究仮説 学習成果の諸側面(学業成績・汎用的技能)の個人差や伸長度を規定する要因には、入学時の特性要因や学習背景要因と、入学後の大学適応感、キャリア意識のあり方の双方が関連する。さらに、学業成績や汎用的技能の側面により、個人差や伸長度に影響する要因は異なる。

4. 研究成果

- (1) 初年次生の大学適応感と学業成績・汎用的技能との関連性 学習動機および協同作業観を含めた心理プロセスモデルの検討



本分析では、A大学の2020年度および2021年度入学生を対象に、前期開始時の学習動機や協同作業に対する意識が、同終了時の大学適応感、1年次における学修成果(GPAと汎用的技能)とどのように関連しているのかについて検討をおこなった。社会が大学生に求める汎用的技能の測定にはPROGを用いた。そのうえで、学生調査や教学データ(GPA)とPROGを併用することにより、外部指標に照らして汎用的技能の習得度を把握し、学

修成果の諸側面と関連する要因について検討することをねらいとした。

その結果、入学後の適応感、汎用的技能のコンピテンシーならびに学業成績 (GPA) の双方と関連すること、学生の有する学習動機と協同作業についての肯定的認識は、相互に関連しつつも、適応感や汎用的技能、GPA との関連のしかたには、違いがあることが明らかとなった (図 1)。すなわち、「自律的な」学習動機は、PROG のコンピテンシーに直接影響する一方、協同作業についての肯定的な認識・態度は、大学適応感を介して間接的に、PROG のコンピテンシーの側面および 1 年終了時の GPA に影響することが示された。これらの結果を踏まえ、1 年生の大学適応感育成支援の重要性・必要性と本結果の限界や今後の課題について考察をおこなった。

(2) 大学 3 年生の学習成果 (学業成績・汎用的技能) と関連する入学時要因の検討

表 1 3 年時の汎用的技能および学業成績 (GPA) と入学時および初年次要因との関連 (n=469)

	学習動機 (達成目標)			協同作業についての認識		1 年終了時の GPA	入学時の学力
	習得志向	遂行接近志向	遂行回避志向	期待	懸念		
リテラシー総合	.063	-.087	-.036	-.042	.024	.091 *	.131 **
コンピテンシー総合	.113 *	.092 *	-.226 ***	.240 ***	-.151 ***	.006	.054
対人基礎力	.063	.074	-.207 ***	.268 ***	-.217 ***	-.029	.039
対自己基礎力	.126 **	.090	-.268 ***	.174 ***	-.096 *	.020	.076
対課題基礎力	.128 **	.162 ***	.026	.067	.017	.115 *	.022
学業成績 (GPA)	.072	.129 **	.060	.046	-.065	.860 ***	.175 ***

註1) 3 年次の学業成績 (GPA) は 2020 年が未集計のため n=392、入学時の学力は n=397 を分析対象としている。
 註2) *** p<.001, ** p<.01, * p<.05, + p<.10

本分析では、試行調査を含めた 2017 年度～2020 年度入学生を対象として、入学年度ごとに、入学時学生調査 (学習動機・協同作業観等) と 1 年前期終了時および 3 年前期終了時調査 (汎用的技能: PROG) をおこなったデータを用いて、3 年次の学業成績 (GPA) および汎用的技能と関連する要因の有無について検討をおこなった。

その結果、学業成績 (GPA)、PROG のリテラシー、コンピテンシーともに、

1 年次と 3 年次の相関は高く、なかでも学業成績 (GPA) とコンピテンシーで相関が高いことが明らかとなった。加えて、3 年時のリテラシーと学業成績 (GPA) では、入学時の学力や 1 年終了時の GPA との間に関連が認められた。一方、3 年時のコンピテンシーは、入学時の学力や 1 年時の学業成績との間には関連が見られず、入学時の習得志向の高さや遂行回避志向の低さ、他者との協同に対する肯定的態度との関連が認められることが明らかとなった。

(3) 1 年時の大学適応感ならびにキャリア意識と 3 年時の汎用的技能の習得度との関連の検討

最初に、コロナ禍による影響の有無を明らかにするため、2020 年度～2023 年度入学生を対象として、大学適応感ならびにキャリア意識の程度に入学年度による違いの有無を検討した。

その結果、適応感では、2023 年生と 2022 年度生は、2021 年度生・2020 年度生よりも「課題・目的の存在」意識や「居心地の良さの感覚」が高く、2023 年度生は 2022 年度生、2021 年度生、2020 年度生よりも、2022 年度生は 2020 年度生よりも「被信頼・受容感」が高いことが明らかとなった。キャリア意識では、2023 年度生は、2020 年度生および 2021 年度生よりも自己を肯定的に捉えており、意思決定スキルを獲得していると認識していた。また、2022 年度生は 2021 年度生よりも、自己を肯定的に認識していることが示された。

次に、2020 年度・2021 年度入学生を対象として、クラスタ分析を行い、1 年時の適応感を 3 クラスタに類型化した (クラスタ 1: 3 因子の得点が高く拒絶感が低い「自律的適応型」; クラスタ 2: 拒絶感が低いものの、居心地の良さの感覚得点を除き、他の側面も意味上の中央値よりやや低い「情緒的適応型」; クラスタ 3: 拒絶感が相対的に高い「適応不十分型」)。そのうえで、1 年時の適応感のタイプにより、3 年時の適応感、キャリア意識、汎用的技能における違いの有無を検討した。

その結果、3 年時の大学適応感では、「拒絶感」でクラスタ 1 とクラスタ 2 の間で違いが認められなかった以外、1 年時と同様に各クラスタ間の差異が確認された。3 年次のキャリア意識では、クラスタ 1 はクラスタ 2 よりも、クラスタ 2 はクラスタ 3 よりも「肯定的な自己理解」をしていた。また、クラスタ 1 はクラスタ 2 よりも「情報収集・啓発的経験への積極性」が強く、「将来展望・設計」が明確であった。

表 2 クラスタごとの 3 年次大学適応感およびキャリア意識得点と PROG スコア

	被信頼・受容感	課題・目的の存在	居心地の良さの感覚	拒絶感
(n=64)	3.41 (0.48)	3.79 (0.59)	4.12 (0.56)	1.89 (0.55)
(n=52)	3.05 (0.42)	3.41 (0.60)	3.67 (0.68)	2.36 (0.54)
(n=32)	2.78 (0.57)	3.12 (0.77)	3.15 (0.90)	2.55 (0.88)
	将来展望・設計	肯定的な自己理解	意思決定スキル	情報収集・啓発的経験への積極性
(n=67)	3.28 (1.01)	3.46 (0.71)	3.65 (0.54)	4.35 (0.48)
(n=58)	2.96 (0.88)	3.02 (0.82)	3.52 (0.64)	4.27 (0.55)
(n=33)	2.55 (0.94)	2.43 (0.77)	3.35 (0.66)	4.05 (0.68)
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力
(n=96)	2.9 (1.60)	3.0 (1.63)	3.4 (1.53)	3.6 (1.57)
(n=83)	2.5 (1.50)	2.7 (1.58)	2.8 (1.43)	3.4 (1.72)
(n=45)	1.7 (0.87)	1.9 (1.09)	2.1 (0.92)	3.3 (1.45)

「将来展望・設計」が明確であった。

最後に、3 年次のコンピテンシー総合スコアおよび下位尺度の対人基礎力および対自己基礎力でも、クラスタ間の差異が示された。すなわち、クラスタ 1 およびクラスタ 2 よりも、コンピテンシー総合スコアおよび対人基礎力が高かった。また、クラスタ 1、クラスタ 2、クラスタ 3 の順で対自己基礎力が高いことが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 澤田忠幸	4. 巻 74
2. 論文標題 VUCAな時代を生き抜くためのキャリア教育：学びと接続した多層的な取り組みの重要性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 石川教育展望	6. 最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田忠幸	4. 巻 5
2. 論文標題 大学初年次生における適応感とキャリア意識との関連	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 石川県立大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 79-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 澤田 忠幸、浅田 義和	4. 巻 55
2. 論文標題 Close-up 2040年問題と高等教育改革 2040年に向けたオンライン・デジタル教育改革-初年次教育-オンラインでつながる場作りを/20年後の医学教育-オンライン教育を含めた教育のあり方を再考する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 理学療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1361～1364
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1551202519	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 澤田忠幸	4. 巻 4
2. 論文標題 1年前期終了時における汎用的技能および学修成績（GPA）と関連する要因の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 石川県立大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 91-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 澤田忠幸	4. 巻 45
2. 論文標題 初年次生の大学適応感と学業成績・汎用的技能との関連性：学習動機および協同作業観を含めた心理プロセスモデルの検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学教育学会誌	6. 最初と最後の頁 26-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 澤田忠幸
2. 発表標題 大学初年次生の初期適応感と汎用的技能の習得度および学修成績との関連
3. 学会等名 第29回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 澤田忠幸
2. 発表標題 大学1年生の初期適応とキャリア意識との関連
3. 学会等名 第28回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤田忠幸
2. 発表標題 学部学生の汎用的技能（ジェネリックスキル）の個人差および入学後の伸長度と関連する初年次要因の検討
3. 学会等名 大学教育学会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 澤田忠幸
2. 発表標題 オンライン授業・ハイフレックス授業で駆け抜けた初年次教育2020：混乱と学び
3. 学会等名 2020年度初年次教育実践交流会 in北陸
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 澤田忠幸
2. 発表標題 オンラインと対面を組み合わせた初年次教育の取り組み
3. 学会等名 第24回大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム「教育機関DXシンポ」
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 澤田忠幸
2. 発表標題 汎用的技能の獲得度と大学適応感，学習動機との関連
3. 学会等名 第27回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 澤田忠幸・垣花涉
2. 発表標題 大学3年生の学修成果（学業成績・汎用的技能）と関連する入学時要因の検討
3. 学会等名 大学教育学会第45回大会
4. 発表年 2023年～2024年

1. 発表者名 澤田忠幸・垣花渉
2. 発表標題 1年次の大学適応感ならびにキャリア意識と3年次の汎用的技能の習得度との関連
3. 学会等名 大学教育学会第46回大会
4. 発表年 2024年～2025年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	垣花 渉 (Kakihana Wataru) (60298180)	石川県立看護大学・看護学部・教授 (23302)	
研究分担者	石川 倫子 (Ishikawa Noriko) (80539172)	石川県立看護大学・看護学部・教授 (23302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------